目次

第1篇 JRの運賃・料金

Introduction 1：はじめに

No.1：JR運賃・料金 ①（1. 運賃と料金 2. 乗車券類の発売時期 3. 年齢区分）

本資料に掲載

No.2：JR運賃・料金 ②（運賃の算出と割引き）

No.3：JR運賃・料金 ③（運賃計算の特例Ⅰ）

No.4：JR運賃・料金 ④（ // Ⅱ）

期間限定版：2026年3月までの規則－以降、廃止予定－

No.5：JR運賃・料金 ⑤（料金の種類）

No.6：JR運賃・料金 ⑥（料金計算の特例Ⅰ）

No.7：JR運賃・料金 ⑦（ // Ⅱ）

No.8：JR運賃・料金 ⑧（ // Ⅲ）

No.9：JR運賃・料金 ⑨（団体旅客の取扱い）

No.10：JR運賃・料金 ⑩（乗車券類の有効期間）

No.11：JR運賃・料金 ⑪（乗車券類の払戻し）

No.12：JR運賃・料金 ⑫（乗車変更、運行不能、列車の遅延、乗車券類の紛失）

No.13：JR運賃・料金 ⑬（特別企画乗車券）

No.14：JR運賃・料金 ⑭（時刻表の読み取り）

国内版と共通

第2篇 貸切バスの運賃・料金計算

No.12：貸切バスの運賃・料金

第3篇 宿泊料金の計算

No.13：宿泊料金の計算

第4篇 フェリーの運賃・料金計算

No.14：フェリーの運賃・料金の計算

第5篇 国内航空の運賃・料金の計算

No.15：国内航空の運賃・料金 ①（航空運賃と航空券の規則）

No.16：国内航空の運賃・料金 ②（さまざまな航空運賃）

Introduction : はじめに

○ 総合管理者試験の「国内実務 - JR -」について

総合旅行業務取扱管理者試験での「国内実務」の出題範囲は国内旅行業務取扱管理者試験と同様ですが、JRに関する出題は傾向が異なっています。

国内管理者試験ではJRの規則について基本的な項目について「浅く、広く」問う傾向がありますが、総合管理者試験では1つのテーマについて「一歩踏み込んだ知識や原則に対する例外」が問われます。

時には細かすぎることもあります…

このテキストでは、個別のテーマについて「基礎～総合管理者試験に必要なレベル」までを扱っています。

よって、国内管理者試験のみを受験される場合は「国内用」の動画・テキストを、総合管理者試験を受験される方は、このテキスト及び動画をご利用ください。

両方を視聴して頂く必要はありません。また、宿泊、貸切バス、フェリー、航空運賃に関しては国内・総合は共通です。

○ 国内実務の出題の内訳

分野 年度	JR	貸切バス	航空	宿泊料金	フェリー	運賃・料金合計
令和6年	6問：30点	1問：5点	2問：10点	2問：10点	1問：5点	12問：60点
令和5年	7問：35点	1問：5点	2問：10点	1問：5点	1問：5点	12問：60点
令和4年	7問：35点	1問：5点	2問：10点	1問：5点	1問：5点	12問：60点
令和3年	7問：35点	1問：5点	2問：10点	1問：5点	1問：5点	12問：60点
令和2年	7問：35点	1問：5点	2問：10点	1問：5点	1問：5点	12問：60点

「運賃・料金」が60%「観光地理」が40%の配点です。「運賃・料金」の分野では、JRが問題数と配点が最も高く、この分野の攻略がまず重要です。

○ 各分野の出題の内容

(JR)

具体的な行程の運賃・料金の額、乗車券類の払い戻し、特別企画乗車券、時刻表の読み取りが定番の出題項目です。特に運賃・料金の額の算出は、原則～例外を一通りマスターしたうえでなければ正解できない問題が多く、最も学習に時間がかかります。

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
問 26	特急料金の算出 ・こだま+のぞみ+みずほ ・東海道+山陽+九州	片道運賃の算出 特定都区市内発着の例外	特急・G料金の算出 ・東北+秋田	片道運賃の算出 ・本州～九州	-
問 27	乗継割引 (制度廃止)	乗継割引 (制度廃止)	特急料金の算出 ・乗継割引(制度廃止) ・福知山駅乗継ぎの特例	指定券の発売開始日 ・大阪～東京間の寝台 ・東京～新大阪間の新幹線	片道運賃の算出 ・新幹線と在来線の並行 区間の特例
問 28	グリーン+グランクラス料金 ・はやぶさ+やまびこ ・東北+山形	特急料金の算出 ・こだま+のぞみ+こ だまの自由席	特急料金の算出 ・会社間をまたぐ場合 のシーズン料金	小児の特急料金 ・東北+北海道 ・自由席+G席	片道運賃の算出 ・通過連絡運輸 (ハビラインふくい)
問 29	片道運賃の算出 ・九州～本州～四国	特急料金の算出 ・乗継割引(制度廃止)	片道運賃の算出 ・九州～本州 ・分岐駅を通過する場 合の特例 ・特定都区市内発着	乗車券類の払戻し	特急料金の算出 ・北陸新幹線と特急 〔「サンダーバード」の特例〕
問 30	乗車券類の払戻し	特別企画乗車券 ・ジパング倶楽部	乗車券類の払戻し	乗車券類の払戻し ・山陽+九州 ・自由席～グリーン	乗車券類の有効期間
問 31	片道運賃の算出 ・通過連絡運輸(青い森鉄道)	乗車券類の払戻し	特別企画乗車券 ・青春18きっぷ	特別企画乗車券 ・ジパング倶楽部	乗車券類の払戻し
問 32	時刻表の読み取り	時刻表の読み取り	時刻表の読み取り	時刻表の読み取り	時刻表の読み取り

(貸切バス)

平成 26 年に運輸局長により公示された「一般貸切自動車運送事業の運賃・料金の変更命令について」を適用して、運賃や各種の料金を算出する問題が続いています。

(宿泊)

「モデル宿泊約款」の規定を具体例に当てはめる問題が中心です。約款が定める数字や金額を覚えて、練習問題を繰り返しましょう。

(フェリー)

「フェリー約款」の規定を前提に、利用人員の組み合わせによる運賃・料金や、払い戻し及び手荷物に関する問題が中心です。

(航空)

日本航空、全日空の各種運賃や払い戻しに関する知識、小児の取扱いなどが定番の出題項目です。航空運賃は頻繁に変更されるので、最新の知識が重要です。

No.1 : JR運賃・料金① (運賃と料金、乗車券類の発売時期、年齢区分)

— JRとは —

国営の事業として、日本全国に路線を有した日本国有鉄道（略称 国鉄）は、1987 年に「JRグループ」として、6 社の旅客鉄道会社と 1 社の貨物鉄道会社に分割民営化されました。

6 社の旅客鉄道会社は、略称として JR北海道、JR東日本、JR東海、JR西日本、JR四国、JR九州といます。

分割民営後はしばらくの間、運賃・料金ともに 6 社共通で、統一のルールで運営されていましたが、運賃・料金の改定や各社間にまたがる新幹線の延伸などにより、会社間で異なる取扱いが多く見られるようになりました。

それでも、国内で最も大きな鉄道グループであり、規則も多くの点で現在でも共通です。

そのため、総合旅行管理者試験でも鉄道の運賃・料金は JRに関するものが出題されています。

1. 運賃と料金

a. 運賃とは

ある駅からある駅まで、JRの列車を利用した「**輸送そのものに対する対価**」のこと。

JRを利用するときは必ず運賃を支払って**乗車券**の交付を受ける必要があります。 IC乗車券の場合を除く。

例えば、新宿駅から松本駅までは、特急列車を利用しても普通列車を乗り継いで利用しても、列車の種類に関係なく、いずれも**運賃**は 4,070 円です。 新宿→松本の輸送に対する対価であるため。

b. 料金とは

JRが提供する「**特別なサービスに対する対価**」のこと。

「速い列車」や「特別な設備」を有する列車を利用する場合（これが特別なサービス）には、特急料金、グリーン料金、寝台料金などが必要になります。

《例》

- ① 普通列車、快速列車の普通席を利用する場合 → **乗車券のみ必要**
- ② 新幹線（特急）の普通席を利用する場合 → **乗車券、特急券が必要** 新幹線は特急列車
- ③ 寝台特急の個室寝台を利用する場合 → **乗車券、特急券、寝台券が必要**

3. 年齢区分

① JRでは旅客を年齢により、以下のように区分しています。

大人	12歳以上の者
小児	6歳以上12歳未満の者（12歳以上13歳未満の小学校の児童を含む）
幼児	1歳以上6歳未満の者（6歳以上7歳未満の小学校入学前の幼児を含む）
乳児	1歳未満の者

小学生から小児、中学生から大人と覚えればよいでしょう。

② 小児の運賃は大人の運賃の半額です。

《例》

大人運賃が3,410円の時、 $3,410 \text{円} \div 2 = 1,705 \rightarrow 1,700 \text{円}$ （10円未満切り捨て）

また、特急料金も半額ですが、グリーン料金や寝台料金は大人と同額です。ここは重要。No.5で再び登場。

③ 幼児は、大人又は小児に随伴されているときは、2名まで運賃・料金は無料です。（3人目から小児として取り扱われます。）

また、次の場合も小児として取り扱われます。

- (1) 幼児が幼児だけで旅行するとき。
- (2) 幼児が、指定席又は寝台を幼児だけで使用して旅行するとき。
- (3) 幼児が、団体旅客として旅行するとき又は団体旅客に随伴されて旅行するとき。

④ 乳児の運賃・料金は上記の（2）以外は人数に関係なく無料です。

[Check Test No.1]

次の記述が正しければ○を、誤っていれば×を付けなさい。

- (1) 静岡駅から浜松駅まで普通列車（東海道本線）に乗車するときは、乗車券のみが必要である。（　　）
- (2) 岡山駅から高知駅まで特急列車（瀬戸大橋線・予讃線・土讃線）に乗車するときは、乗車券のみが必要である。（　　）
- (3) 新幹線のグリーン車で、新大阪駅から広島駅まで乗車するときは、特急券とグリーン券のみが必要である。（　　）
- (4) 始発駅を7月31日に発出する特急列車の指定席券は、6月30日の午前10時から発売される。（　　）
- (5) 東京駅を10月1日の21時50分に発出する寝台特急「サンライズ出雲」に、10月2日の0時20分に静岡駅から乗車する場合の特急券と寝台券は9月2日から発売される。（　　）
- (6) 12歳の中学1年生は、小児運賃が適用される。（　　）
- (7) 大人1人の運賃が7,150円の区間を小児1人が利用すると運賃は、 $7,150 \text{円} \div 2 = 3,575 \text{円}$
→ 3,570円である。（　　）
- (8) 大人1人と小学生2人が普通列車に乗車するときは、大人1名と小児2名の運賃が必要である。（　　）
- (9) 大人1人が3歳と4歳と5歳の幼児を随伴して、普通列車に乗車するときは大人1人分と小児1人分の運賃が必要である。（　　）
- (10) 大人1人が3歳と4歳の幼児を随伴し、特急列車の指定席を3席利用して、旅行するときは、大人1人の乗車券と、大人1人と小児2人の特急券が必要である。（　　）

No.1

- (1) ○：普通列車に乗車する場合は、料金は必要なく乗車券（運賃）のみが必要。
- (2) ×：特急列車を利用するときは、乗車券（運賃）だけでなく、特急券（特急料金）が必要。
- (3) ×：特急券とグリーン券に加えて、乗車券（運賃）も必要。乗車券はJRに乗車するときは必ず必要。
- (4) ×：指定製の座席は、始発駅を出発する日の1箇月前の日の午前10時から発売される。また、1箇月前の対応日がないときは、乗車する月の1日から発売される。よって本問では6月に31日は存在しないので、7月1日から発売される。
- (5) ×：指定製の座席は、始発駅を出発する日の1箇月前の日の午前10時から発売される。よって、発売開始日は9月1日である。乗車日でないことに注意。
- (6) ×：12歳であっても、例外として小学校に在学中は小児運賃が適用されるが、中学生になれば原則通り大人運賃が適用される。
- (7) ○：小児運賃は大人運賃の半額であり、2で割ったときに10円未満があれば切り捨てる。よって、3,570円となる。
- (8) ○：大人には大人運賃、小児には小児運賃が必要である。小児は無賃にはならない。
- (9) ○：大人が幼児を随伴するときは、幼児2名までが無賃になる。本問では幼児が3人なので、1人分は小児運賃が適用される。よって、大人1人分と小児1人分の運賃が必要。
- (10) ×：幼児であっても指定席を専用するときは、小児として取り扱われる。よって、本問では幼児2名は小児となり、小児用の乗車券（と特急券）が2人分必要になる。